

三寶寺からのお知らせ

草花がいつせいに芽吹き、桜のつぼみもふくらみ初め、春を感じるようになってきました。皆様お元気で過ごしのことと存じます。

さて、当三寶寺のご本尊様、阿弥陀如来立像をお迎えまであとわずか三カ月となりました。目に見える「新寺建立」の過程をご同朋の皆様と共に歩んで参りたいと思います。

花まつり・入参式

(定例法話会合同)

4月12日(土)午後一時半より定例法話会と合同で恒例の花まつり(釈尊降誕会)と入参式(誕生祝)を執り行います。甘茶をかけて釈尊の誕生を祝い、併せて子の誕生、親とならせていただいた喜びをご同席の皆様で分かち合います。入参式ご希望の方は、事前に三寶寺までお申し込みください。

総代からのお願い

御本尊お迎えに向けて

江里康慧仏師の手になる御本尊阿弥陀如来立像をお迎えし、いよいよ7月6日(日)「おわたまし法要」が

営まれるにあたり、三寶寺門信徒の会では、今後も必要となる式典用の式幕・テントなどの寄贈を予定しております。つきましては皆様からのご懇志を募ります。これら備品には寄進者皆様のご芳名を記載させていただきます。なにとぞ皆様のご協力をお願いいたします。ご懇志は総代あるいは役員の伊藤・名桐にお渡しになるか、お寺様にお託しください。

しんらんさまかるた

親鸞聖人のご生涯を題材にした「しんらんさまかるた」(すずき出版・工藤市郎絵)をご紹介します。聖人のご生涯、御教えにふれていきたいと思います。

ちちははに

かなしいわかれ

親鸞さまは、

幼くして源氏の出といわれるお母さんの吉光女



(きつこうじょ)さまと別れ、つづいて家庭の事情でお父さんの有範とも、生き別れの身となりました。しか

三寶寺講演会シリーズ 「三願転入」製本出来!

曾我部正幸先生述著・500円 昨年十一月の報恩講でお話し頂いた「三願転入」の内容を冊子にまとめました。表紙は伊藤様の水墨画の一冊目、深鳥様のデザイン画による二冊目に続き、やはりご同朋の宮城尚巨様による四季の花の写真で構成されています。ぜひご購読ください。

し、ひとりぼっちの親鸞さまは、伯父さんの範綱のもとで、孤独に耐えていっしょうけんめい勉強されました。

せんせいの おはなしよくききます

幼くして父と別れられた親鸞さまは、その悲しみに耐えて、伯父さんの範綱のもとで

歌や文学などいっしょうけんめい勉強に励まれました。学ぶということは、先ず「よく聞く」ということで



このつでごしゅつけ しんらんさま 親鸞さまは 九歳の春お坊さんになられました。「今夜は遅いから明日にしよう。」と言われた青蓮院の慈円和尚に、「明日ありと、おもうところのあだ桜、夜半に嵐の吹かぬものは」と詠まれ、松明を燃やして異例の家得度式が行われたことが伝えられています。



お待たせしました!!

報恩講講演集第3弾

三願転入

~ 告白的自記の文 ~

曾我部 正幸先生述著
B6・32頁・頒価500円

三寶寺出版部